



心炎即涼

息心筆

遷着

記
遺後一

三月廿三日之

45
1270
1

丁亥廿一



1270
1



楚將昭奚恤為楚將昭王問江乙曰北
方之人畏昭奚恤何也對曰虎得狐
欲啖之狐曰無啖我天帝命我長百
獸若不信隨我後以觀百獸見虎
皆走虎不知畏己以為畏狐也北方
非畏奚恤實畏王之甲兵也

周
昭奚恤為楚將昭王問江乙曰北
方之人畏昭奚恤何也對曰虎得狐
欲啖之狐曰無啖我天帝命我長百
獸若不信隨我後以觀百獸見虎
皆走虎不知畏己以為畏狐也北方
非畏奚恤實畏王之甲兵也
此乃正八周乃よるひさきき
なまとも今よる人情は
かくのこし主を畏れを借
畏ゆえしめりきつて虎を
あつて天帝命あり我
をよるひさきき加しらと

なし後子... 思ふ... 多... 官... 師... 乃... 亦... 其... 畏... 實... 兵... 在... 畏...

隋

一克君素湯陰人仕為擊鷹郎
將從屈突通拒唐師于河東為
木鷲係表於頸浮之黃河河陽
得之達於東都唐太宗詔曰桀犬

吠堯有... 倒戈之志... 表歲寒之心... 所著與河海以爭流峻節所標... 松而俱茂

君素八隋乃郎將上... 唐乃太
宗... 敵對... 其主... 忠義... 太宗... 賞... 臣... 乃... 史冊... 乃...

周

一要離刺客也吳公子光... 僚憂其子慶忌在鄰國... 胥子胥進要離離曰吾詐負

罪出奔殺吾妻子且出怨言慶忌必信
光乃殺其妻子于市且出怨言聞于諸
侯離見慶忌于衛言計而喜與之俱渡
江至吳地乃投慶忌于水三泚其頭慶忌謂
左右曰莫殺之令還吳以旌其忠離至江陵
伏劍以報

宋 一姚興 相州人以武功累遷荆湖南路兵馬副都

監金兵渡淮興以百騎當金八十萬自辰至午

戰數十合援兵不至父子俱死金人相謂曰

有如姚興者十輩吾屬敢前乎事聞詔

贈觀察使更謚忠毅立廟祀之

孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

也孟子曰性善也中席論語孟子

純是く古人を師とて学ゆをし
以て師とて師を得るといふは自
身つとて志たに引かざるは其業
を成し遂ぐ師を事するにあらず
世乃ち之ハ可なりといふは之を
なしんらぬといふは書を讀むを
懈怠と爲すは富貴と樂との
真ならずハ学をせんとして決意す也

一人ハ学をせんをせされハそんを
辱むるのなしと云ふ莫ハ五穀す
て所やしなひをなすそんを
かまハなと親切に教ふを
能ふなり 孝弟忠信の道理仁義
禮知ろんるるを詳に教ふ
なすぬを之を二説を教へ

一三志りて之を真ふんといふなり
人ハ万物の靈にして大にして学ひ
て之をも人なる理を遠く好しと
すといふを学ひては好むなり
志て下事につけ愚痴を好むは
十たてり事なる理ありては
敬りて之を身なりと云ふは
天命を疑はんとすは其の徳あり
たらぬしハ其の莫大なる
いられぬたぬしハ其の事
甚く多し 老てハ其のやくも
たぬ身となりて 食を神とし
やじて之を事して 佛とならぬ
あつて愚痴を好むは 佛とならぬ
志て終り人身を失ふと佛とならぬ

二万とて教の法なり 一切経の
七千餘卷ハ寺院の有りしなり
たぐひたるありて一とよめよ
とよ教のありしなり 法華
般若も老子莊子の書をよめし
なり文字もて翻譯をたしか中華
の知識此の書ハ盡く孔子の
学よりして一變して釋氏の
方れも其道ハ之なり 堯舜文武
周公を離れしとありて佛の
かよしとありて國政ハ聖道
を政にせよとありて 禮法を能
くしむる人ハ少くありしなり

三三三とて礼の法なり 増く禮を
このとまつとありて七とたたり
たりと或ハ富貴ハ驕を
貪ししとありて 貪と
聖人ハ抑時賤者ハ此とありし
をよめたりありしと今
傳して王公大臣とありしと
をたししと結ぶ事あり 後ハ君
となり臣となり 父子兄弟夫婦
朋友五人あり 禮をよめしと
事なく教ハなりし書をよめ
せしきとせむた、なすくなく
今日をよめしと悪事なす
ん中ありた、ありしと

予のなりしもたゞ苦ろきと
 て樂をいふもまの教に教は
 こるるなりしなりしなりし
 ありしなりしなりし天地の
 ひらけたるなりしなりし
 川と星の教をいふなりし
 郡乃東より西、南より北、
 其はなりしなりしなりし
 自ら治教なりし州郡縣里
 乃得てなりしなりしなりし
 天地の教をいふなりし
 開闢より今なるなりし
 ひはりなりしなりしなりし

見しよりなりしなりしなりし
 いそとかりなりしなりし
 遠依りなりしなりし

一博識とよなりしなりし
 文章と詳なりしなりし
 其才はなりしなりしなりし
 其のなかりしなりしなりし
 差過はなりしなりしなりし
 つまひなりしなりしなりし
 上乃人なりしなりしなりし
 よく見たりしなりしなりし

智ありしよりすまじき書を
世に人の現をよしと定めて所事
はく上を師ありしを友ありと
とて其師友の言を感得せし
ゆへ紙を襦りてその言を
固く執し之を以て己の師人
たり出現ありていふしゆへに
志は中と常人の教誨を以て
おぼしめしあはれかくのこころ
かたしは不孝なりつと申し
きいめし不忠なりと申しハ朋友
ありては之を以て己の師人
たりしゆへに失ふと申しし起
りしゆへに上を以て己の師人
たりしゆへに人ありては己
たりしゆへに是れ是れなり

一人乃苗字之穴シトあり
字書古肉字 陳音解歌
肉と云ふと云ふやせ 肥肉 肉
物不中

一姚瀛字子山福安人七歲能班史十七歲應舉居太
學以文章著名隆興初平進士九位教官官嘗辭太
玄通潛虛之教所著鳳凰臺集行于世

七歳してよく漢書をよみ十七歳の時に出た字
に居心文章をよみ進士となり四方に教官として
教を授けたり鳳凰臺集あり世に流行す

一趙貞汲郡蠡吾人京兆尹初兄子為瑯邪
太守行縣見不其令薛宣甚悅其後行屬縣
還至府令妻子相與見戒曰薛君廉主丞
相我兩子亦為丞相史後宣果代張瑀為丞
相除貞兩子為史時稱貞有知人與子之明
見云

人を知しとするよみ人を見ふし人を知
事唐と日本と甚し得るべき事は
かりて云々得るべき事なり趙貞
ハ安人となれども是亦其朋ありと
歴し千古史冊をてらし後ふなり
邪の太子となり巡見の時支配る其
子孫を令薛宣を見て甚く悦びこれ
中興なりと云ふ事一巡り後ふなり
遊り妻子を戒して子孫を度り
めなり及なり不其乃令薛君を
して立身して丞相となん我々
まことけ立相り史と云ふしと
かとなく張璃なり丞相となり
趙貞の二子を除く史と云

愚として明なる事暗なり暗なる事
愚なる事愚なる事八人なり
用をなさずゆくなり明暗なり

ありて太平の時代を
おきかへて
一人分り身もやし
かとの事ハ

一漢の趙咨字ハ文楚昨城と云ふ人
なり東海乃相り拜せらふ道
陽と云所を過くそ乃令曹嵩嘆して
曰趙君乃身を過く是くは天下の
笑を為之即ち印綬を棄てて
謁ん沼日計之侍と云く清節名
を著せり趙咨乃乃孝行乃名
あり却時盜夜中より
事あり咨母を驚えんと

志川より盗を連て謝して父母老
しつ痛りすこし衣糧をせし
おきこれ餘ハミケ物らされ妻子此
事の阿も惜ひなきなし
盗えり入るそひしりすすい
きりぬこれよりその名をす
全體東海乃相と名
あふ人カとせハこれ

一漢乃包咸字ハ子良會稽乃人上し
東海乃客たりと云亦履ハミケ乃得地
晨昏誦經して自命乃職あやし
是ををををを武帝中興乃社
卿里之の孝廉乃舉又郎中
除せを入て太子乃論語を撰

大鴻臚乃累遷也太子即位乃
時師傅乃恩たりと云を以
俸禄を加賜も包咸是を頂
戴して諸生乃命たりと云
給與也太子明帝乃

一書乃老乃意ハよ乃學者
子之のハ十三經二十一史を皆
そら乃諸子百家盡くそら
爲るや乃思ひ又材乃子
窮乃癖と云いつま之皆
是乃乃や乃乃乃乃

子や三つをわたり居る事
凡ゆるまゝに師を揚上して
あらざるにまじしとよきもの
きくゆへにまじりたるを
人の乃傳を讀み博識と
如く五經を通とよみ
書の上まゝなしなとよ
如く今乃事なり古乃
事と記出し即座にこれ
例と論し之れをよむハ
天下の名ありとの識者
其時より其故實を記出
是と學者なり書と
をよむ天下國家君臣
未

政事人事の專用とす
自ら感得し是を
肝に自然と領得し
古乃事なり
錯結したる可成り是を辨
定して其書をよむこと
其要をとりてなる功なり
こゝに人生質恰利し
書と看過せん自然と天理
理をよむこと知る
古人の文理を正明なり
大やく是を信得し感得
し詩と傳り文を傳り
理なりしきをよむこと

乃華麗をこぼしんばな正心職
意の自然なり任をたて人理の
たてしきまのまじりてす
たしめた多きを素懐するに
よりんやまをこそをさえ
る根本とてしんを定め
次ありて文字を增長
しんをそりて堅固なり
出射の日に有る理なり

一趙温榮の歎曰大丈夫當雄飛
安能雌伏竟棄去去人尤しめ京兆の
丞とて惟より杜老ありと史なり
人乃傳をある忠孝義なり蘇
たの文をなしやをく天下の人

口是碑其人を計る
趙氏の記を大きく事をなすけ
了す歎して曰大丈夫ハ雄飛をし
之をよく雌伏せんが名言と
と官を棄てるの清操を
取り其の時を知るが臣
たるの已むをしる國乃
君の民をとして不可をし加ふ
時をいつふハ雌伏をに同し大丈夫ハ
まさに雄飛をとして歎息し
その官をとする宰相ハ学をとしる
人をとして今の事に
そのを用ゆまハ上もハならぬとい
直をとして子世也從僕もしる昔の
治亂乃君臣の賢愚乃とし其要を

ありてなきものなり

一隋の亡びて百八を此君の道と云ふ國
をうしなすなりと云れども此臣節を
守らざるありて竟君素河東を守
り唐兵を助ぐこと甚く此上し
能くありありと降すといふも下流
禮を以て是を招くと云ふも後
其妻をとりて是をすすめ
夫君素河東を説くしむ妻君素河
城門を閉りて事をもつ隋室
すて平らかりたり君何ゆゑ自ら
を逃しに歸らざるやと云ふ妻
ををたなきけしと云ふ君素河
さふひ天下の名義婦人なり
不しありて三つらと云ひて是

射 弦 一 應 一 死 言 也 身 也
かとなん戦後と唐一統の時
忠義をあらわし詔ありて蒲州刺
史と贈り是を廟祀と又其子
根をたつひりて以て聞せたり
回ろ興正八時なり忠義の士を
養育する太平の基を鞏固なり
是なり要なり大將なりと云ふ
是なりいふ人多くおねと十分
述せらるるなり

一人ありて少なりたしな之又以
つし之又学をつとむなりと云ふ
是道よき事なりと思ふ
ありしして却りしなり
いふ人ありあましく其傳あり

凡の...師友...其...
き...一通り...
自然と...善悪利害...
心不徹...
此勢...
誘引...
自利非...
一途...
書と...
あ...見...
明辨...
上...
ろ...
今



識...
こ...
あ...
と...
不...
當...
し...
引...
あ...
勇...
心...
と...
学...
一...
家...
三...
真...
人...

一古人...
家事...
三...
真...
人...

かり遂て我、一代を以てやうも
天命ありまうせしるは古
乃名うる風流文雅乃孝忠
信乃千古不朽乃賢者をたつ
之とあ聖人の教を守り一念を
昧さ人乃興廢を自在に坐臥
する世を爾らんと委しく前を
見ゆこひろく一生をてろくを
善業に安置をまこり

風吹ひも動せぬ天邊月と
り境界ハすろ定りなり世乃
變遷ハ大小乃多あなく之乃天乃
教乃之、
其たろ、
人止家を家わらひて

祖乃功業を、し、
再順ろ、
罪蹟しして、
積善ハ餘業ある積悪ハ餘業有

と子死人を活せし、
積悪も、
之乃、
たひ、
と之、
費し人民をなやま、
功德と武帝、



えしぬる人なりすくろ五六代七八代と
まうつるゆゑあつたりたるハ務あり
多し又一代きりししてそれら
そのあつたりつゝもたつたつて
人なれハたつたつて人よしとやまぬ
社父の家をわたりすそへ子孫を
つたつたりつゝもたつたつて

一人として一藝ハありさうさうの
あつたつてを企らつたりんことをし
あつたつてつゝもたつたつて
あつたつて父兄あつたつてつたつて見
明友あつたつてあつたつてつたつて
まゝ時つたつてつたつてつたつて
一とあつたつてつたつてつたつて
何とあつたつてつたつてつたつて

不思議な事ありつたつてつたつて
一日つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて

不思議な事ありつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて

つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて
つたつてつたつてつたつて
あつたつてつたつてつたつて

すく即ち 小うと浮海揚三三せん
なとハ五極内院ありしものせむも
志ぬとくすもななく一向を
用る事えさあおさそれ即ち
事とまじしくしりひき
たえハ一生の實を得りと失
るふとの損益ハつくと考く
えかへし とき老人ハつる不
ふらき人をえてよむかをしを
すぬて杜若ハつる時よき脚
友をくつるつる 日月と送り
ゆり今ハ下端不自中しし九集
うすし 後悔ふきりなくしと
ともたぬ 明りをくりに命
をもとむゆり 中んふら
後くかたきくかたきくかたき

教すむむあつるまてあつり
又つぬあつらおあもまて
史家たつとなくは年十
十ふゆりか子とありこり
それよりあつしとよとこ
こらあつるあつる

おあつるあつるあつるあつる
やうあつるあつるあつるあつる
え、あつる 情識乃字あつるあつる
あんあつるあつるあつるあつる
ときあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる

晏嬰ハ一國乃相となり車
ありてくさるる顔色
なれとてさるる御は
意氣揚こところも
よまきりくふものハあまほし
かふらふらを見えてそれ妻
離縁をこひるハ人あころ
よしハリと高下あると
あえれたらしくあまほし
女しよまをこひしときふ
あまほしなるるも
嬰國ち相して車しめりし
よあトつりたりあまほ
にりかきりしとてあまほ



かく意氣揚こところも
たるらるるをさるる
是れかくしよまをこひし
限しよ服しけんまは
志すこところも
とりのたりを是公是是
たつひけまはあまほ
あまほを是公せらつま
を感してころ御を君
やて中大夫乃官をさる
はつまかきり御人ち道
理を志す御よし善
りいつゆらまはあまほ

いくろもあしし人夫婦の
史冊よりなり千古の物
なりとなり人なりてなり
ちりさなりをなりひきなり
高きなりミをなりなりをなり
なりなり

こり御と日皇子乃御分れこを國乃相
せして政と執りしなりなりを
能く思ふなりしなり位階なりなり
こしなりなりなりなりなりなりなり
君を輔佐し民を安堵せしめたり
なりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり
風調雨順四海安樂なりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり



